

CMSC JOURNAL

Vol.8

北海道'85ノースアタック300表彰式

今シーズン初優勝、さらにシリーズチャンピオン最右翼の羽豆選手(左)!



北海道'85ノースアタック300表彰式



CMSC福島
藤田/吉田組

6位、

「まあ、こんなものですよ」といいながらも、後半戦波に乗ってきた藤田選手(左)

'85JAF全日本ラリー選手権 第8戦

北海道 ノースアタック300 : 7月20日(土)~21日(日)

羽豆/田口組 **優勝、** 山内/山口組 **2位、**

'85JAF全日本ラリー選手権 第9戦

岩手県 栗駒山アルペンラリー : 8月24日(土)~25日(日)

CMSC青森 館山/永沢組 **4位、** 山内/山口組 **2位、** 大庭/小田切組 **3位、** CMSC青森 福士/安田組 **5位、**



3位とわずか1ポイント差! 惜しかった館山選手(右)



栗駒山の各SSを攻めに攻めた、福士選手(右)

'85JAF全日本ラリー選手権——レポートfromナビゲーターズシート

チャンピオンを目指してラストスパート!

6月29日午前4時30分、目覚ましの音に驚いて起床。“なんでこんな時間に目覚ましをセットしたのかな?”とボケた頭で考える。“そうだ、6時の新幹線で盛岡へ行くんだ”。あわてて仕度をととのえて、上野へ向けて急いだ。だいたい、つい10日程前に“地獄のマレーシア”から帰ったばかりで、悪夢まださめやらずの心境にあるうえに、昨日は出張で家に帰ったのは12時頃。まあしょうがない新幹線の中で寝るかと思いついて、そのとおり、目がさめたら“次は盛岡”のアナウンスが聞こえていた。

三菱勢の活躍が期待された 第7戦“ツールド東北”

第7戦ツールド東北。スタート地点のマツハランドに着くと、いつものスタート地点の光景、しかしマレーシアに行っていて、先日の九州を欠席しているのになんだか、久しぶりの国内ラリーという感じがして、変な気持ち。

“3時にスタート、夜の3時にはゴールして、ゆっくり休んでから帰ってもらいます”と藤村競技長の説明がドラマであり、ラリーでは初めてのドクターチェックを女医さんから受けて、いよいよスタート。早速ハイアベレージで走り始める。浮砂利は多いが、道幅も広く、楽にオンタイムペース。しかし、あのマレーシアでの悪夢のミスコース後遺症が残っていて、コース図ばかりが気になる。ふと目を上げると、コンピュータのファイナルは、+30秒、あわてて補正を入れて、それでも+15秒。“落とせ”と言ったら、目の前には無情にもCPが見えて、オフィシャルが“おいで、おいで”をしている。仕方なく、CPイン。結果、17秒の早着だった。しかし、これでやっといつものペースに戻れて、以後はマイペース。

第1ステージを終えて、トップとは23秒差、やはり早着分が大きい。気をとり直して、第2ステージスタート。なんとか、1ステの分をとり戻さなくてはと、羽豆ドライバーも張りきっている。しかし、2ステ中盤、ゆるい右コーナーを3速全開で、まわったところ、コーナー後半がきつく、“アッ!”と思った時はすでに遅く、テールからコースアウト!!

前1/3をコースに残して、お尻がすり

落ちた格好になってとまった。急いで降りて押したが、亀の子になっていて、ピクともしない。あきらめようかとも思ったが、マレーシアのこともある。NEVER GIVE UP。近くから石を拾ってきたり、ジャッキアップしたりと、悪戦苦闘すること30分。ついに、追上げが来た。あきらめてリタイヤ届けを出す。追上げ車に引張ってもらおうとあつけなく脱出でき、あの30分がうそのようであった。“リタイヤはしたけど、自力で帰ってきたから、お弁当をあげるよ”と変ななくさめを石黒監督からもらい、その後さびしくゴール地点へ向う。ゆっくりと寝て、目が覚めると結果、神岡Zの2連勝だった。まあ仕方ない。今年のジंकウスからいっても、今回はリタイヤの順番だから、次回の北海道が勝負!と強がりを持って盛岡を後にした。しかし、どうも東北はついていない。羽豆との初めての東北は、転落リタイヤ。去年の栗駒もいいとこなし。まあ、第9戦の栗駒こそ!

あつというまに時間はたち、7月19日、半年ぶりの北海道。今年の北海道はけっこう暑いな、というのが第一印象。苫小牧泊りでは、やることもなく早目に寝て明日にそなえる。今回勝たねばどこで勝つ。という覚悟である??

スタリオン、ワン・ツー圧勝! 第8戦“ノースアタック300”

第8戦ノースアタック300。いつもの大和ルーツ高原、4年目である。1年目、まだJAF戦になるまえのチボー、羽豆にとっては3連勝を挙げたものの、'83、'84とJAF戦になってからはいいとこなし。本当に今年こそこの思いが強い。

コースはだいたい、いつも通り。初めてのコースが昼間のギャラリーステージである中山峠旧道、約10kmのコース。いつもながら、羽豆選手、スタート直後はなんとなくペースが上がらず横で見ている“遅いナー”。トップの伸弥選手に14秒も差をつけられてしまった。この差が最後までたたらなければいいのだが、との思いがチラッと頭をよぎる。ラリー区間第1ステージのスタートは7時1分。

このステージコースは羽豆の得意コース。ここで頑張ってトップに出なく

ては、と思いつつスタート。まあなんとか無難にこなして、このステージをトップであがりサービスへ戻る。1ステ終了時点ではなんと伸弥、羽豆、大庭選手が1・2・3位。伸弥と羽豆の差は4秒。よし、あとは我が1位となってADVANの1・2・3位を狙おう、などと虫のいい考えを起して2ステスタート。道とは思えない豊浦旧道、一昨年の痛恨のコースアウトの川渡りコース等を経てゴール、伸弥選手をなんとか逆転した。しかし、大庭選手が大岸コーナーの次の急コーナーでコースアウトしたとの事。惜しい。ラストの3ステはSSのみ。コースも良くわかっているとのことなので無理をせず、このポジションをキープするように作戦変更。やっとゴール、念願の北海道でのJAF戦今シリーズ初優勝。

スタリオン、コルディア4WD、 ランサーが2~5位を独占! 第9戦“栗駒山アルペンラリー”

次は又東北での第9戦栗駒山アルペンラリー。ゼッケンを聞くと2番、“あまた砂利かきか!”との思いがまず頭に浮かぶ。それに順番からいくと又“リタイヤ”の番だし、本当に東北はついてなさそうだ!コースはここ2週間程、まったく雨が降っていないとの事で、ホコリと砂利に悩まされそうだ。

ゼッケン1~10はここまでのポイント順ということで、誠、羽豆、神岡、ゴーチンの順である。伸弥は、シードドライバーの特権を生かして27番、いいポジションである。それに上坂選手も31番と絶好の位置にいる。初めてのコースの1CPこそ、とくにホコリもなく走れたものの、次からは誠選手のホコリと砂利に悩まされる。神岡選手もスタリオンのホコリの後では調子が出ないようだ。もつともその後のゴーチンいわく“スタリオンとZの後ろを走っ

てみて”とのことであるが、勝負所の国見平の下り、ホコリに気をとられて気がついたら、コーナーは目の前。あつという間もなく、左半分が路肩へ!運良く、すぐそばにギャラリーがいたので手伝ってもらってコース復帰。もつとも10分以上のロスタイム。下のCPにはCMSC岩手のメンバーが佐々木氏以下オフィシャルとしていて、我らの遅れを心配してくれていた。もう成績には関係ない、しかし、リタイヤだけはしたくない、なんとか今年のジंकウスを止めなければとの思いのみで、残りのコースを走る。上坂選手は運良く、前の3台が1ステ半ばでリタイヤ。伸弥選手の4分後、ホコリのないワリアン中で走っていて絶好調。

1ステを終って戻ると、上坂、堀田、伸弥、館山選手が上位の模様。冬だけでなく、ダートでも早いことを実証しよう館山選手がコルディア4WDで頑張っている。同じく青森の富士選手も好調。今日のCMSC青森勢、大西選手も含め快調。その原因は?と聞くと、?氏が来ていないからとのことでしたヨ! 1ステの逆走が2ステ、2ステの後半が3ステとほとんど同じコースで残りのラリーは進み、2ステ、3ステを伸弥選手がトップで上がる追い上げをみせたものの、上坂選手のホコリ無し走法におよばず2位、3位は昨年の覇者大庭選手、そして4位は1秒差でコルディア4WDの館山選手、さらに5位は富士選手のランサーと2~5位をスタリオン、コルディア、ランサーが独占した結果に終わった。

さあ残すところ2戦! 次回は“群馬県人会のラリー”モンレー。もつとも今年初めて使う国有林道があるのかなので、もしかしたらとの期待もある。スタリオンのチャンプ獲得目指して、ラストスパート!!

(CMSC本部 田口雅生)





◀CMSC青森の館山選手と取材に来た「フレイドライブ」誌の清水博志さん(右)

▲明け方のスペシャル・ステージ「岩木山スカイライン」

CMSC青森 主催 '85ダイヤスターラリー イン青森 (東北ラリーチャンピオンシリーズ 第4戦) : 8月3日(土)~4日(日)

三菱車がCクラス上位を独占!

ねぶた祭で賑う弘前で開催された'85ダイヤスターラリーイン青森は、弘前市郊外をスタートし岩木山麓をめぐる約270kmのコースで行なわれました。コルディア4WD、ランサー勢が1~4、6位と大活躍。ラリーアート杯争奪にふさわしい結果となりました。「全国のCMSCのみなさんも、ぜひ青森の大会に参加してください」と語る鶴ヶ谷会長。シリーズチャンピオンを狙う館山選手達を全員でバックアップしていくそうです。

▼ベテランペア高野正伸 / 志賀正明組
コルディア4WD(CMSC福島)は2位



◀優勝した高藤伸二 / 崎山博行組
コルディア4WD



CMSC福島の藤島光男 / 今野泰正組ランサーは4位



▲全日本ナビコンピ、村上一平 / 草加浩平組 / 大西の
コルディア4WDを駆って3位



CMSC帯広 主催 第2回CMSC 帯広コルトラリー (道東チャンピオンシリーズ 第1戦) 6月22日(土)~23日(日)

鈴木・広瀬組ランサーが優勝!

第2回CMSC帯広コルトラリーは、帯広近郊の帯別町を基点とする約200kmのコースで行なわれました。道内で開催される全日本戦では上位にくい込む実績をもつ鈴木 / 広瀬組 (アクスル創路) が順当にCクラス優勝。

その後、7月6日(土)~7日(日)創路で開かれた道東シリーズ第2戦「道東トロフィ杯争奪ナイトラリー」では、CMSC帯広の西保 / 中井組がCクラス優勝。シリーズチャンピオンを狙うとのこと。青沼選手をはじめ、若手の活躍が楽しみです。

▼大会の成功を喜ぶCMSC帯広のみなさん



▶ランサーを駆って優勝し三菱賞1位に輝く鈴木昭江(左)、広瀬泰伸(右)両選手

◀競技車を笑顔で迎えるCMSC帯広の若手メンバー



▲2年間連続殊上のチャンピオン青沼選手(左、今日は大会事務局)



▲組織委員長の大役をこなした、佐藤会長

◀陰ながらも大会を支えた別荘事務局

CMSC 岩手 主催 第2回岩手三菱ダイヤモンドトライアル('85JMRC東北岩手県ダートトライアルシリーズ第6戦)：7月7日(日)

10月には岩手三菱ダイヤモンドラリーを主催

7月7日(日)岩手県矢巾町の特設会場で、CMSC岩手主催による“JMRC東北岩手県シリーズ第6戦岩手三菱ダイヤモンドトライアル”が行なわれた。

梅雨空の下、前日までの大雨も明け方には、やっと小康状態となり、開会式には小雨がぱらついたが、大勢の参加者で賑った。

この岩手県シリーズ戦は昨年から定着し、回を重ねるごとに参加台数も増え、頼もしいことにレアシスの参加も2台。我がチームの紅一点、高橋昌代選手も益々やる気が出てきて各大会に遠征している。レアシスの参加も増え、定着するのを望んでいる。

その反面、盛岡市から15分程度で行ける矢巾町の特設会場が来年から利用できなくなるという情報が入り、深刻な問題になりつつある。本拠地の近くにコースがとれなくなれば、活動にも支障をきたす恐れもあり、頭の痛いところである。

さて今回のコースは、距離1.3km。当初の設定では1分30秒をきれるかが勝負どころだったが、長雨にコース全体が泥沼状態。ひどい所では水深20cmを越えるところもあり、記

録的には今ひとつだった。しかし参加車輛73台のほとんどが完走。ダート野郎の意気込みの凄さを感じられた。

各クラスの優勝は、B Iクラスが岩淵選手(1'42'34)、B IIが府金選手(1'46'90)、C Iが佐藤選手(1'44'41)、C II Dが斉藤選手(1'40'80)、R Iが阿部選手(1'42'43)、R IIが武田選手(1'44'67)という結果となり、第1ヒートでトップタイム1分40秒80をたたき出した斉藤選手が他を寄せつけず最後まで逃げきった。

今回はタイムスケジュールを考慮し、1台目がゴールする前に2台目がスタートする新方式で行なった。そのため参加者が多かったにもかかわらず、3時には表彰式が行なえ、スピーディに終了した。初めは慣れなかったオフィシャルも、次第に手際良くなり、大会は大成功のうちに幕となった。

この成功を10月に主催する岩手三菱ダイヤモンドラリーに結びつけるために、クラブ員一丸となって一層努力をしたいと思っている。皆さんもぜひ、大自然いっぴいの岩手ラリーを楽しみに来てください。

(CMSC岩手 佐々木 学)



▲コースの中央に置かれたオフィシャルカー・バジェロ



▲入賞各選手の表彰風景。山程の賞品に注目!



▲全日本ラリー選手権第9戦、栗駒山アルペンラリーにオフィシャル参加したCMSC岩手のみなさん。バックの車は羽豆スタリオン



▲大会本部前からスタート。車は積原選手がランサー。クラブ倉吉



▲あいさつする大坂審査委員長と組織委員長を務めた杉板会長(右端)



▲R IIクラス2位の田栗慎二選手(チーム司)と3位の向井篤選手(チーム司)

CMSC 島根 主催 '85CMSC島根ダートトライアル (日本海ダートトライアルチャンピオンシリーズ第7戦)：8月18日(日)

5年ぶりの主催は、ハイスピード・コースが大好評

8月4日(日)に開かれた日本海ダートトライアル第6戦で、我がチームの国谷選手がN IIクラス2位と、好成績でした。

続いて開かれた'85CMSC島根ダートトライアルは、5年ぶりの主催。準備には万全を

期したので、スムーズに行なわれました。記録の書き出しが早かったのと、事前のアンケートに基づいたアナウンスで空白時間をなくしたことが好評でした。

思いっきり走ってもらおうということで、ハイスピード・コースを設定。他の大会があとない設定だったので、常連のエントラントには喜ばれました。また今回は地方競技で底辺拡大をねらい、初参加の人も結構いたのですが、トライアルの面白さを存分に味わってくれたので、成功だったと思います。

(CMSC島根 見崎 千里)



▲第6戦でN IIクラス2位、国谷選手のランサー



▶優勝した藤原ランサー

CMSC 香川 主催 '85CMSCアストロトライアル ('85JAFダートトライアル四国地方選手権)：7月7日(日)

B II、ラリー車クラスでランサーが快走!

例年どおり香川スポーツランドで開催された'85CMSCアストロトライアルは、好天に恵まれ、参加台数も123台と大盛況。CMSC本部の外川会長も出席し、華々しく行なわれました。

B IIクラスでは1位に藤原健二選手(SR

RCC)、2位に細川健司選手(潮流)が、ラリー部門では2位に田中則久選手(O. M. S. C)が入るなど、ランサーの健闘ぶりが目立ちました。11月2日(土)~3日(日)には「CMSCアストロラリー」を開く予定。多勢の参加が期待されます。



▲外川会長(中ほど)とCMSC香川のみなさん



▲三菱車賞(右から)1位藤原選手、2位細川選手、3位田中選手

